

平成30年度県民のためのミニコンサート

◆「県民のためのミニコンサート」は4年目を迎えました。今年度はより多くの方との交流を深めるため、佐賀県とのコラボ、地域でのミニコンサートを開催しました。

第1回 佐賀県・佐賀県芸術文化協会プレゼンツ 《第1回 アート県庁☆星空のミニコンサート》



平成30年6月29日(金)
県庁最上階展望ホール
19:15~19:45
演奏者：ハープ奏者
児島 裕子
アイリッシュハープによる優しい
調べ「星に願いを」など全8曲

第2回 風のふるさと厳木町ミニコンサート in きゅうらぎ 「マリンバデュオの響き」



平成30年10月20日(土)
演奏者：塚崎 美子
八谷和歌子
アフリカの民族楽器であったマリンバは美しい豊かな低音が魅力。ラ・カンパネラ、剣の舞 他演奏。

第3回 佐賀県・佐賀県芸術文化協会プレゼンツ 《第2回 アート県庁☆星空のミニコンサート》



平成30年10月26日(金)
県庁最上階展望ホール
19:15~19:45
演奏者：ハープ奏者
児島 裕子
癒しの音色、アイリッシュハープ。
秋桜、カノン、ジュピター 他演奏。

予告

第4回

平成31年3月22日(金)
佐賀県庁県民ホール
12:20~12:50

演奏者

A-Clef Special Version
(佐賀県庁職員による弦楽の魅力)
エトピリカを含む6曲を演奏。

第60回 佐賀県新人演奏会

◆平成31年3月に全国の音楽系大学等を卒業する、佐賀県出身者の若き音楽家の旅立ちを祝う音楽会です。今回は60回という記念の年を迎え、特別賞も設けています。若き音楽家たちへのエールを込めて、ぜひご来場ください。

日時 平成31年3月16日(土)
開場12:30 開演13:00

ところ 佐賀県立美術館ホール 入場無料

主催 (公財)佐賀県芸術文化協会・佐賀県・佐賀県音楽協会

後援 NHK佐賀放送局・サガテレビ・NBCラジオ佐賀
佐賀新聞社・(一財)佐賀銀行文化財団



《出演者リスト》

- No.1 岩永 琴美 <ユーフォニアム>
♪ユーフォニアムとピアノのための幻想的変奏曲
- No.2 松瀬 由佳 <ピアノ>
♪ピアノソナタ第30番 ホルン調OP109第1・2楽章
- No.3 藏戸 里沙 <サクソフォン>
♪サクソフォン協奏曲
- No.4 丹野 侑花 <ピアノ>
♪ピアノソナタ第21番「ワルトシュタイン」OP53 第3楽章
- No.5 林 正典 <生田流箏曲>
♪水の変態
- No.6 中村英莉子 <ピアノ>
♪ピアノソナタ第3番より第1楽章
- No.7 柴田かおり <ホルン>
♪聖ユベールの狩りOP99「La Chasse de Saint-Hubert.OP99」
- No.8 川久保萌恵 <ピアノ>
♪華麗なる大ボロネーズ OP22
- No.9 猪口 有希 <トロンボーン>
♪KONZERTINO 第1・2楽章

※審査結果は佐賀県芸術文化協会ホームページで紹介いたします。
saga-geibun.or.jp/

県美術展覧会

美術公募展として昭和26年に始まる「県展」の愛称で親しまれ、長きを誇っています。「想い」が溢れており、芸術文化が詰まっています。その作品の中から厳正な審査を経て、展示いたしました。今年も、さらなる知事賞7点の受賞がありました。



県展公式ポスター 最優秀賞

佐賀県立有田工業高校
デザイン科 3年 前田 桃華

◆この県展告知ポスターのコンセプトは「作る・造る・創る」です。ちらっと見たときに「何て書いてあるんだろ?もっと近くで見たい」と興味を惹かれるようなデザインを心がけました。なぜ恐竜と機械がモチーフかという、県展が見えがありそう、迫力がありそうというイメージだったからです。また、今までのポスターにはない新たな試みとして、県展の文字を斜めにして恐竜に噛みつかせてポスター全体を一体化させ動きがあるようにしました。



◇第68回佐賀県美術展覧会 出品状況及び入賞・入選作品数◇

	日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	デザイン	計
出品数	23	142	9	50	199	309	131	863
入選点数 (入賞も含む)	12	66	8	47	81	99	70	383
展示点数 (佐賀会場)	12	66	8	48 (うち選作1)	81	99	70	384

◀会期▶・佐賀会場 平成30年9月15日(土)～9月24日(月) 佐賀県立美術館・博物館
・唐津会場 平成30年10月13日(土)～10月21日(日) 唐津市立近代図書館



実行委員会
佐賀県陶芸協会
佐賀県写真協会
文化連盟
美術文化協会・佐賀県
会・唐津市近代図書館
美術館

第68回 県展公式ポスターデザイン候補作品展



◆計73名の高校生が作品を制作。個性あふれるデザインが揃いました。平成30年7月17日(火)～23日(火)、県庁1階の県民ホールにて展示、同時に「あなたの好きな作品!人気投票!」を実施しました。

- ・有田工業高校 3年生 34名
- ・佐賀女子高校 2年生(25名)と3年生(14名)の39名



人気投票
ベスト3

1位 川本 実音(有田工業高校 3年)

◆県展という文字が目が行きやすい配置にした。モチーフは何かをイメージしたわけではなく「これはなんだろ?」と見た人に考えさせるものにした。



2位 田口 真侑(有田工業高校 3年)

◆ホオズキの形がハートのように、散りばめたら面白いと思った。ホオズキを「個性」「アイデア」に見立てて、落ちていくよう配置した。



3位 山下 玲奈(有田工業高校 3年)

◆中心点から閃きやアイデアを模した球体が放射状に飛び出す様子を作成した。県展の厳格なイメージから、金に似せた茶と黒を選び存在感を与えた。

部分の多い生地に白化
ブラック・赤を配置、構

状の界線とその間の器
す。磁器の作品がほと
磁器の作品に負けぬほ
す。また、柔らかさや温
現で、釉面の仄暗さや
の魅力を抑揚しています。

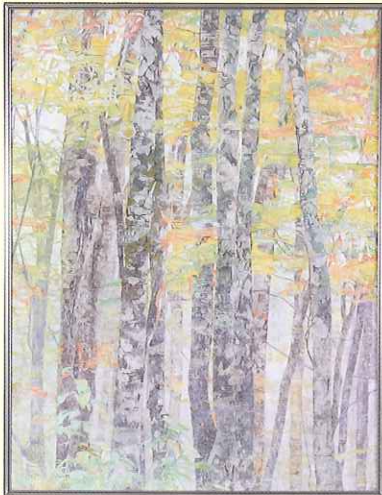
佐賀県知事賞受賞作品

(7部門)

第68回 佐賀

◆佐賀県美術展覧会は本県最大のり、今年度で68回を迎えました。にわたり継続して開催することが今回もどの作品にも作者の強い質の高さを感じる作品ばかりで、査によって選ばれたおよそ400点中から最優秀作品「大賞」が決定

■日本画■



秋の樹林

荒木 正次(佐賀市)

◆私は、登山が好きで、1年の内に何度か山登りをします。昨年10月に、福島県の磐梯山に登りました。当日は朝からひどい雨で、雨具を着ての登山でしたが、こんな日は何か普段と違う景色が見えるかもしれない、密かに期待をしながら登っていきました。途中で、樹林帯に差し掛かった時、雨に煙って紅葉した美しい樹林の景色を目にし、今回の県展の絵にすることに決めました。今年6月1日から下図を描き始め、着色に入ると木肌の感じが、いつも見る九州の木肌と違うのに心を砕きながら、紅葉と雨に煙った雰囲気が出ているか気にしながら描きました。

■デザイン■



観光ポスター 元気に泳げ鯉のぼり

與賀田博史(佐賀市)

◆この度は、素晴らしい賞を賜りありがとうございます。私は23年間、県展に挑戦して参りました。今回の作品では、線と色のバランスをどのように表現できるかを自分なりに挑戦してみました。ただ自分の好きなことだけをやったという思いがあるので、賞がいただけるとは思っていませんでした。若い頃に比べると作風は変わりましたが、挑戦する気持ちは今も変わっておりません。特にこの三年間は、若い方々の作品に刺激を受けデザインする意欲がわいてきました。普段から「一見無意味に思えるようなものを楽しんで生きたい」と考えています。普通にしていたら通り過ぎてしまうモノから色々なことを想像すると、人生楽しめるのではないかなど…。今回の受賞で、あきらめず日々想像・挑戦することの大切さを痛感しております。これからも、この賞に恥じないよう努力して参ります。



佐賀会場

佐賀県立美術館・博物館

9/15(土) - 9/24(日)

9:30-18:00 (最終日は16:00まで)

唐津会場

唐津市立近代図書館

10/13(土) - 10/21(日)

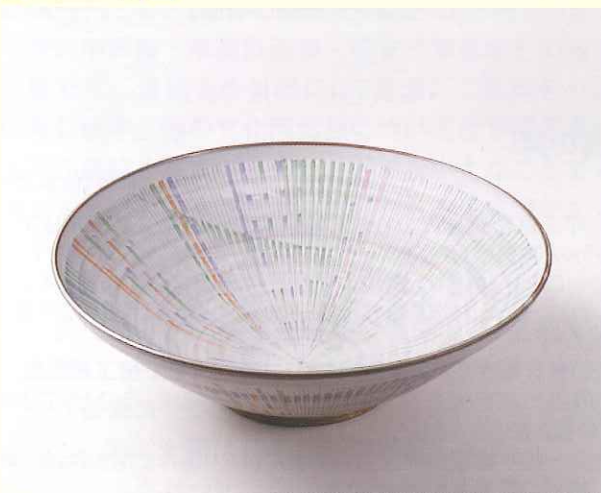
10:00-18:00 (最終日は16:30まで)

●主催 佐賀県美術展覧会
佐賀美術協会・佐賀県書作家協会・佐賀県高等学校(公財)佐賀県立佐賀県教育委員会・佐賀県立博物館

大賞

各部門佐賀県知事賞の中から、総合審査により佐賀県美術展覧会大賞に決定しました。

■工芸■



彩線文鉢

花田 和彦(有田町)

◆天草陶石に福岡県宮若市の山土を混合した半陶半磁器、焼成はガス窯を使用。化粧を施し、鉢(内外)に放射状に線彫りすることにより上絵付の四色、グリーン・ピンク・成した。色による心の内面的表現、その時々心の動きを映し表した。

《大賞審査評》

工芸部門 審査員 石橋 裕史

◆佐賀県知事賞を受賞された花田和彦さん《彩線文鉢》は、化粧土に刻んだ放射面上に施された淡い彩色で構成される抽象的模様が、軽快な律動感を与える作品で、多くの陶芸分野では数少ない陶器の作品ですが、すっきりと伸びやかなアウトラインはどシャープな「かたち」に立ち上げられており、作り手のみずみずしい感性が伝わってきかみといった質感の表出も、作り手の素材と技術に対する意識の深度を窺うに足る表現所々に現れた釉溜まり、そして鉄分の多い素地土の見せ方など、「土もの」ならではの触感

佐賀県知事賞受賞作品

(7部門)

彫刻



流線球

草場 龍介(有田町)

◆ペーパークラフトを続けて37年になりますが、久々の受賞に驚いています。美を追求するなどという芸術家タイプではなく、気負うことなく楽しく紙で遊んでいますので、作品を見ていただけただけで嬉しく思います。この作品も材料は厚さ1mmの紙です。

ここ数年は自由に曲げられるという特性を生かした造形に取り組んでいます。どういった形ができるか紙に問いながらいろんな曲げをしているうちに紙の方から今回はこの方法でしてみたら、と教えてくれました。

制作のこだわりとして形のみを表現するため着色しない、円弧の直径は一種類のみと条件を絞りました。しばらくはこの方法で楽しんで制作していきたいと思えます。

写真



雨の道ゆき

原 利男(伊万里市)

◆賞の知らせにびっくり、驚きました。

これまで入選歴はありましたが、入賞、それも知事賞に選ばれるとは思っていませんでした。本当に嬉しいです。

作品「雨の道ゆき」は昨年10月、祐徳稲荷神社の330年式年大祭のイベントで門前通りを奉納道ゆきが行われましたが、これに出演された、きつねメークのよさこい踊り隊です。

当日は朝からあいにくの雨で、ずぶぬれになりながらも、皆さん笑顔で一生懸命に踊られている姿に感動しシャッターを切りました。一人一人の表情がとても印象的でした。

自信はありませんでしたが入賞できたことを幸運に思っています。

これを契機に更に精進し、感動のある作品作りを目指します。

洋画



生命の讃歌(二)

井上 良子(唐津市)

◆知事賞を頂き感激に堪えません。身に余るご褒美に感謝申し上げます。

今回の作品は大きさへの挑戦とジャンルを超えた表現を試みました。試行錯誤の末にやりきった満足感と完成時の自作に感動できたことは、終わりなきスキルアップへの大変貴重な経験となり、表現する楽しさが深まりました。

書



杜甫の詩

溝内 静峯(佐賀市)

◆今年の異常気象に合わせた如く、突然の出来事に夢ではないだろうかと思わず驚くばかりです。

幼いころから好きな「書」ではありましたが、作品展に出品するようになり二十年、未だ未知の世界…。いつも書の深さ重さに戸惑うばかりです。

この数年は横書き漢字(多字数)に挑戦。今回は加工紙の墨入れを重点として何か表現できぬものかと試行錯誤。自分としてはかなりの量を書き込みました。

その一枚が審査の先生方のお目に留まり選んで頂きました。幸運に感謝の言葉もありません。ありがとうございました。